

1. 4 大気部

令和6年度は、監視調査として大気汚染常時監視調査、排出基準監視調査、悪臭調査、騒音調査及び酸性雨調査を実施した。また、環境省の委託調査として化学物質環境実態調査を行った。

調査研究は、酸性雨の地域特性を明らかにするために、雨水及びガス・エアロゾル成分の採取、分析を行ったほか、「奄美地域におけるPM_{2.5}の発生源解析に関する調査研究」を行った。

1. 4. 1 大気汚染常時監視調査

大気汚染の状況を的確に把握するため、当県では、工業地域、都市地域や桜島周辺地域など監視の必要な地域に大気測定局を設置し、テレメータシステムにより常時監視を行っている。なお、一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）は17局（県設置10局、鹿児島市設置7局）、自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）は2局（県、鹿児島市とも各1局）設置しており、未設置地域は大気測定車による測定で補完している。大気測定局の位置及び令和6年度の大気測定車による測定地点を図1に、

測定項目を表1に示す。

また、地域ごとの特色に応じた効果的な微小粒子状物質（PM_{2.5}）対策の検討のため、質量濃度の測定に加え、成分分析を行った。

(1) 常時監視調査結果の概要

1) 二酸化硫黄 (SO₂)

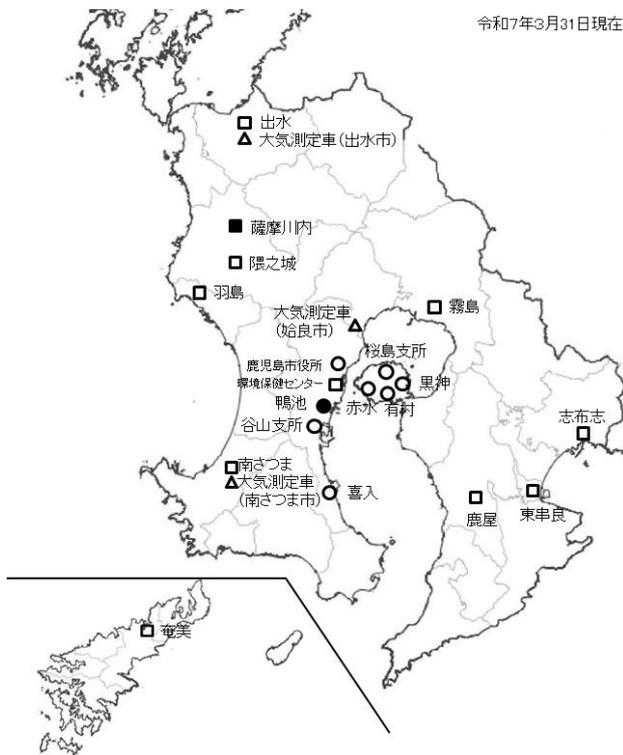
二酸化硫黄を測定している測定局は7市町に16局設置されている。令和6年度は、有村、赤水及び黒神局で、長期的評価による環境基準を達成していなかった（表2）。

2) 窒素酸化物 (NO_x)

窒素酸化物（二酸化窒素、一酸化窒素）を測定している測定局は7市町に11局設置されている。

令和6年度は、有効測定日数を満たさなかった3局を除き、全ての測定局で二酸化窒素の環境基準を達成していた（表2）。

また、窒素酸化物に占める二酸化窒素の割合は、一般局が47.6～91.0%、自排局が52.9～64.8%であった。



令和7年3月31日現在

区分	鹿児島県設置局 11局	鹿児島市設置局 8局
一般環境大気測定局 17局	□ (10局)	○ (7局)
自動車排出ガス測定局 2局	■ (1局)	● (1局)
大気測定車設置地点	△ (3地点)	

図1 大気測定局等位置

表1 大気測定局等一覧及び測定項目

No.	測定局	測定項目									
		二酸化硫黄	窒素酸化物	浮遊粒子状物質	光化学オキシダント	一酸化炭素	微小粒子状物質	炭化水素	風向・風速	温度	交通量
1	鹿児島市役所*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2	環境保健センター	○	○	○	○					○	
3	鴨池	○	○	○		○	○	○	○		
4	谷山支所*	○	○	○	○		○		○		
5	喜入*	○	○	○	○		○	○	○		
6	桜島支所*	○	○	○					○		
7	赤水*	○	○	○					○		
8	有村*	○	○	○					○		
9	黒神*	○	○	○					○		
10	鹿屋	○	○	○	○		○	○	○		
11	出水						○		○		
12	薩摩川内*	○	○	○		○	○	○	○		○
13	隈之城	○	○	○	○		○	○			
14	霧島	○	○	○	○		○		○		
15	羽島	○	○	○	○	○	○	○	○		
16	南さつま				○		○		○		
17	志布志	○	○	○	○				○	○	
18	東串良	○	○	○	○				○	○	
19	奄美				○		○		○		
20	大気測定車 (出水市)										
21	大気測定車 (始良市)	○	○	○	○	○			○	○	○
22	大気測定車 (南さつま市)										

*1 鹿児島市設置局 *2 自動車排出ガス測定局

3) 浮遊粒子状物質 (SPM)

浮遊粒子状物質を測定している測定局は7市町に16局設置されている。令和6年度は、全ての測定局で、長期的評価による環境基準を達成していた (表3)。

4) 光化学オキシダント (Ox)

光化学オキシダントを測定している測定局は9市町に12局設置されている。令和6年度は、全ての測定局で環境基準を達成していなかった (表4)。

5) 一酸化炭素 (CO)

一酸化炭素を測定している測定局は2市に2局設置されている。令和6年度は、2局とも長期的評価による環境基準を達成していた (表5)。

6) 微小粒子状物質 (PM_{2.5})

微小粒子状物質を測定している測定局は8市に12局設置されている。令和6年度は、全ての測定局で環境基準を達成していた (表6)。

7) 炭化水素 (HC)

炭化水素を測定している測定局は6市町に8局設置

されている。令和6年度は、喜入、鴨池及び薩摩川内局で光化学オキシダント生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針を満足していなかった (表7)。

(2) 大気測定車による監視調査

令和6年度は、出水市 (北薩地域振興局出水支所敷地内)、始良市 (国道10号沿道) 及び南さつま市 (南さつま市役所敷地内) で監視調査を行った (表8)。出水市、始良市及び南さつま市において、光化学オキシダントが環境基準を達成していなかった。また、始良市において非メタン炭化水素が指針値を超過する日があった。

その他の項目については、環境基準及び指針を満足していた。

(3) 微小粒子状物質 (PM_{2.5}) 成分分析

大気中微小粒子状物質 (PM_{2.5}) 成分測定マニュアルに基づき、霧島局において、微小粒子状物質の捕集及び成分分析を実施した。捕集期間を表9に、成分分析項目を表10に示す。

表2 二酸化硫黄、二酸化窒素及び一酸化窒素濃度測定結果

(単位: ppm)

測定局	項目	二酸化硫黄			二酸化窒素			一酸化窒素	
		年平均値	年間の1日平均値の2%除外値	環境基準の長期的評価	年平均値	年間の1日平均値の98%値	環境基準の長期的評価	年平均値	年間の1日平均値の98%値
鹿児島市	鹿児島市役所	0.002	0.008	達成	0.007	0.015	達成	0.003	0.008
	環境保健センター	0.002	0.013	達成					
	谷山支所	0.003	0.014	達成	0.003	0.005	達成	0.003	0.008
	喜入	0.001	0.003	達成	0.002	0.004	達成	0.001	0.001
	桜島支所	0.001	0.007	達成					
	赤水	0.005	0.054	非達成					
	有村	0.021	0.179	非達成					
	黒神	0.003	0.029	非達成					
鹿屋市	鹿屋	0.004	0.030	達成	0.002	0.003	-*	0.000	0.001
薩摩川内市	隈之城	0.001	0.004	達成	0.003	0.006	達成	0.000	0.002
霧島市	霧島	0.002	0.006	達成	0.002	0.004	-*	0.003	0.007
いちき串木野市	羽島	0.001	0.007	達成	0.002	0.003	達成	0.000	0.001
志布志市	志布志	0.001	0.006	達成	0.004	0.008	達成	0.001	0.004
東串良町	東串良	0.002	0.009	達成	0.002	0.003	達成	0.000	0.002
鹿児島市	鴨池 (自排局)	0.002	0.011	達成	0.008	0.016	達成	0.004	0.011
薩摩川内市	薩摩川内 (自排局)	0.001	0.003	達成	0.005	0.009	-*	0.005	0.008

* 鹿屋、霧島、薩摩川内の二酸化窒素については、機器不良により有効測定日数を満たしていないため、評価対象外である。

(注) 環境基準の評価方法

二酸化硫黄: 1日平均値の年間2%除外値が0.04ppm以下であること。ただし、1日平均値が0.04ppmを超える日が2日以上連続したときは、上記に関係なく非達成とする。

二酸化窒素: 1日平均値の年間98%値が0.06ppm以下であること。

表3 浮遊粒子状物質濃度測定結果

(単位：mg/m³)

測定局	項目	環境基準の 長期的評価		
		年平均値	年間の1日平均 値の2%除外値	達成
鹿児島市	鹿児島市役所	0.016	0.038	達成
	環境保健センター	0.016	0.041	達成
	谷山支所	0.016	0.031	達成
	喜入	0.015	0.034	達成
	桜島支所	0.013	0.041	達成
	赤水	0.014	0.035	達成
	有村	0.016	0.044	達成
黒神	0.014	0.033	達成	
鹿屋市	鹿屋	0.015	0.040	達成
薩摩川内市	隈之城	0.012	0.029	達成
霧島市	霧島	0.013	0.029	達成
いちき串木野市	羽島	0.017	0.041	達成
志布志市	志布志	0.017	0.047	達成
東串良町	東串良	0.014	0.037	達成
鹿児島市	鴨池(自排局)	0.015	0.035	達成
薩摩川内市	薩摩川内(自排局)	0.014	0.036	達成

(注) 環境基準の評価方法

1日平均値の年間2%除外値が0.10mg/m³以下であること。ただし、1日平均値が0.10mg/m³を超える日が2日以上連続した場合には上記に関係なく非達成とする。

表4 光化学オキシダント濃度測定結果

(単位：ppm)

測定局	項目	環境基準 の評価		
		昼間の1時間値の 年平均値	昼間の1時間値の 最高値	昼間の1時間値の 0.06ppm 超過時間数
鹿児島市	鹿児島市役所	0.028	0.093	106
	環境保健センター	0.028	0.084	67
	谷山支所	0.027	0.079	48
	喜入	0.033	0.098	91
鹿屋市	鹿屋	0.034	0.089	149
薩摩川内市	隈之城	0.029	0.089	86
霧島市	霧島	0.029	0.088	49
いちき串木野市	羽島	0.036	0.094	118
志布志市	志布志	0.030	0.087	122
東串良町	東串良	0.033	0.099	189
南さつま市	南さつま	0.033	0.092	220
奄美市	奄美	0.031	0.092	113

(注) 環境基準の評価方法

昼間(午前5時～午後8時)の1時間値が0.06ppm以下であること。

表5 一酸化炭素濃度測定結果

(単位：ppm)

測定局	項目	環境基準の 長期的評価		
		年平均値	年間の1日平均 値の2%除外値	達成
鹿児島市	鴨池(自排局)	0.2	0.3	達成
薩摩川内市	薩摩川内(自排局)	0.3	0.5	達成

(注) 環境基準の評価方法

1日平均値の年間2%除外値が10ppm以下であること。ただし、1日平均値が10ppmを超える日が2日以上連続した場合には上記に関係なく非達成とする。

表6 微小粒子状物質濃度測定結果

(単位：μg/m³)

測定局	項目	年平均値	年間の1日平均値の 98パーセン タイル値	1日平均値が 35μg/m ³ を 超えた日数	環境基準 の評価
鹿児島市	谷山支所	9.2	19.8	0	達成
	喜入	8.4	19.2	0	達成
鹿屋市	鹿屋	9.9	20.4	0	達成
出水市	出水	8.8	22.5	1	達成
薩摩川内市	隈之城	9.5	20.7	1	達成
霧島市	霧島	8.3	18.6	0	達成
いちき串木野市	羽島	8.7	20.2	1	達成
南さつま市	南さつま	8.3	19.0	0	達成
奄美市	奄美	6.7	16.0	1	達成
鹿児島市	鴨池(自排局)	9.1	23.1	3	達成
薩摩川内市	薩摩川内(自排局)	9.7	20.5	1	達成

(注) 環境基準の評価方法

1年平均値が15μg/m³以下であり、かつ、1日平均値の年間98パーセンタイル値が35μg/m³以下であること。

表7 炭化水素(非メタン及びメタン)濃度測定結果

(単位：ppmC)

測定局	項目	非メタン炭化水素		メタン 年平均値
		6～9時 における 年平均値	6～9時の 3時間平均値 が0.31ppmC を超えた日数	
鹿児島市	喜入	0.04	3	1.97
鹿屋市	鹿屋	0.07	0	2.09
薩摩川内市	隈之城	0.04	0	1.99
いちき串木野市	羽島	0.04	0	1.99
志布志市	志布志	0.05	0	2.01
東串良町	東串良	0.05	0	2.08
鹿児島市	鴨池(自排局)	0.09	1	2.00
薩摩川内市	薩摩川内(自排局)	0.10	4	2.04

(注) 光化学オキシダント生成防止の指針

午前6時～9時の3時間平均値が0.31ppmC以下であること。

表8 大気測定車による光化学オキシダント濃度測定結果 (単位: ppm)

測定場所	測定期間	昼間の1時間値の平均値	昼間の1時間値の最高値
出水市 (北薩地域振興局 出水支所)	令 6. 4. 24~ 5. 24	0.048	0.074
	令 6. 10. 30~11. 28	0.031	0.054
始良市 (国道10号沿道)	令 6. 9. 7~10. 7	0.021	0.050
	令 7. 2. 7~ 3. 11	0.037	0.074
南さつま市 (南さつま市役所)	令 6. 7. 25~ 8. 25	0.024	0.066

表9 微小粒子状物質捕集期間

捕集地点	季節	捕集期間
霧島局	春	令 6. 5. 9~ 5. 22
	夏	令 6. 7. 18~ 7. 31
	秋	令 6. 10. 17~10. 30
	冬	令 7. 1. 16~ 1. 29

表10 微小粒子状物質成分分析項目

成分	分析項目
イオン成分	F, Cl, NO ₃ ⁻ , SO ₄ ²⁻ , Na ⁺ , NH ₄ ⁺ , K ⁺ , Mg ²⁺ , Ca ²⁺
無機元素	Be, Na, Mg, Al, K, Ca, Sc, Ti, V, Cr, Mn, Fe, Co, Ni, Cu, Zn, As, Se, Rb, Y, Mo, Cd, Sb, Cs, Ba, La, Ce, Pr, Nd, Sm, Eu, Gd, Tb, Dy, Ho, Er, Tm, Yb, Lu, Hf, Ta, W, Pb, Th
炭素成分	有機炭素 (OC), 元素状炭素 (EC)

1. 4. 2 排出基準監視調査

大気汚染防止法及び県公害防止条例に基づいて、工場事業場等の燃焼ガス中のばいじん、窒素酸化物等の測定を8施設で行った。

1. 4. 3 悪臭調査

ENEOS喜入基地(株)周辺(4地点)において、環境保全協定に基づき硫黄系4物質の濃度測定を年2回行った。いずれの物質においても協定に定められた値以下であった。

1. 4. 4 航空機騒音調査

環境基準監視調査として鹿児島空港及び鹿屋飛行場の周辺地域において、それぞれ7地点で航空機騒音調査を行った。

令和6年度の鹿児島空港の調査結果を表11に、鹿屋飛行場の調査結果を表12に示す。全ての地点で環境基準を達成していた。

表11 航空機騒音測定結果 (鹿児島空港) (単位: デシベル)

指定区分	基準値	地点	測定年月日	測定結果	環境基準の評価
I類型	57	A	令 6. 7. 12~ 7. 18	40	達成
		B	令 6. 5. 24~ 5. 30	40	達成
II類型	62	C	令 6. 12. 13~12. 19	50	達成
		D	令 6. 7. 12~ 7. 18	54	達成
		E	令 6. 5. 24~ 5. 30	53	達成
		F	令 7. 1. 31~ 2. 6	58	達成
		G	令 6. 12. 13~12. 19	58	達成

表12 航空機騒音測定結果 (鹿屋飛行場) (単位: デシベル)

指定区分	基準値	地点	測定年月日	測定結果	環境基準の評価
I類型	57	A	令 6. 10. 25~11. 7	40	達成
		B	令 6. 4. 12~ 4. 25	43	達成
		C	令 6. 4. 12~ 4. 25	37	達成
II類型	62	D	令 6. 10. 25~11. 7	54	達成
		E	令 6. 9. 13~ 9. 26	46	達成
		F	令 6. 9. 13~ 9. 26	44	達成
		G	令 7. 1. 24~ 2. 6	48	達成

1. 4. 5 酸性雨調査

酸性雨調査については、環境省の委託業務として、越境大気汚染や酸性沈着の影響の早期把握や将来の影響を予測するために、令和5年度まで国設屋久島酸性雨測定所に自動雨水採取装置を設置し、1週間ごとに採取した降水のpH、電気伝導率(EC)の測定及びイオン成分(SO₄²⁻, NO₃⁻, Cl⁻, Na⁺, K⁺, Ca²⁺, Mg²⁺及びNH₄⁺)の分析を行った(2.2.2(1)参照)。

県独自の調査としては、当センター敷地内に自動雨水採取装置を設置し、1週間ごとに採取した降水のpH、ECの測定及びイオン成分の分析を行った(2.2.3(3)参照)。

1. 4. 6 精度管理

(1) 降水分析機関間比較調査

(一財)日本環境センターアジア大気汚染研究センターが実施する降水分析機関間比較調査に参加し、模擬酸性雨試料(高濃度及び低濃度)について、pH、電気伝導率、イオン成分(SO₄²⁻, NO₃⁻, Cl⁻, Na⁺, K⁺, Ca²⁺, Mg²⁺及びNH₄⁺)の分析を行った。